

# 「柏崎の橋」

## 23 やさか 八坂橋

八坂橋は西本町三丁目と中浜一丁目をつなく、鵜川に架かる橋である。

昭和7年9月、景気対策を目的とした国の公共事業「時局匡救事業」の一つとして、八坂神社裏から鵜川に橋を架け三つ石までの直線道路をつくり新しい町をつくる「中浜海岸道路工事計画案」が柏崎町会に上程された。当初は新しい道路によって交通量が減少し地域がさびれることを心配した人々による反対意見も多かったが、昭和7年11月工事開始。昭和8年10月末、当時の柏崎町長西巻進四郎氏が竣工間近となった新橋を「八坂橋」と命名。「昭和8年11月竣工」等の文字を親柱に揮毫した。

昭和9年12月16日、海岸道路開通式と八坂橋渡り初めには町会議員など名士90名が参列し、祝宴会が催された。

昭和20年7月15日、鵜川の氾濫によって橋は流失。翌昭和21年復旧架橋工事が行われ、11月16日完成。



老朽化が激しく多額の維持費が必要となり架替が急がれるようになった昭和32年3月、都市計画事業として永久橋への架替が計画され、昭和33年11月9日渡り初め・竣工式が行われた。橋長50m、幅8mのコンクリート橋で、柏崎初の水銀灯が配され、橋名の揮毫は当時の田中角栄代議士だった。



昭和58年8月鵜川激特事業にともなう架替に着工、昭和59年7月23日供用開始。それまで用いられたコンクリート橋が塩害を受けていたため、県内初のアエン引き鋼橋となった。橋長64.4m、幅10.75m、総工費25,600万円。親柱装飾は以前の橋にあった鑄金作家伊藤豊氏の作品が用いられた。鵜川激特事業関連の下流部の橋梁工事はこれにより完了となった。



- 参考にした本  
柏崎の民俗と余録 (382 頁) 山田良平 著  
中浜海岸通りと小池国平さん (224 頁) 山田良平 著  
中浜海岸通り四十年 (224 頁) 山田良平 著  
中浜海岸通り七十年 (224 K材)  
中浜海岸通り七十周年記念誌編集委員会 編  
柏崎市史資料集 近現代篇 3上 (224 K 頁)  
柏崎日報 柏崎日報社  
越後タイムス 越後タイムス社